

滋賀県地域公共交通ネットワークの運行情報見える化（オープンデータ化）事業について

土木交通部交通戦略課

- 意見聴取内容

GTFSデータをオープンデータ化した後、MaaSシステム構築に向けてデータの利用環境の整備等行政がすべきこと。

（課題・背景）

○持続可能な地域交通ネットワークの構築には、自動運転やMaaS等交通DXの推進により、交通事業者のコスト減と利用者の利便性向上が必要

○今年度県内の路線バスのGTFSデータを整備およびオープンデータ化

→経路検索事業者のデータの活用により、公共交通の利用促進（利便性向上）

～県全体で公共交通ネットワークの利用環境を整え、滋賀県の魅力を向上させる～

ステージ 1

基礎データの整備

【現状と課題】

Googleマップ等による経路検索に表示されない移動手段は「存在しない」と認識される。

<交通軸：JR、近江鉄道線等> 経路検索可能

<交通網：バス等> 地域によってバラツキあり

➔ 経路検索サービスにおいて、**交通網に「穴が空いている」状況。**

【事業の目的】

交通「軸」と「網」を合わせ、公共交通ネットワーク全体をデータ上で見える化（Googleマップ等の経路検索サービスで検索できるように）する。

➔ **バス路線のみならず、鉄道も含め公共交通全体の利便性向上・利用促進**

（施策の効果）

① **公共交通の利用者増加**（→県の支出する欠損補助を低減）

② **定住人口・交流人口の増加、県のブランド力の向上**

※ データをオープンにすることで、第三者によるアプリ開発など、発展的な利用を期待する。

【事業の概要】

データ化されていないバス路線の運行情報（停留所、時刻表、運賃等）をGTFS形式（標準的フォーマット）でデータ化し、経路検索サービスに提供するとともに県ホームページにおいて公表する。

ダイヤ改正等に伴うデータ更新は、各運行主体で実施する必要があるため、担当者向けの講習会・作業演習を年1回程度実施する。

ステージ 2

リアルタイム情報の提供

バス走行位置や遅延情報などリアルタイム情報の提供が可能となる

遅延状況を踏まえた経路検索や乗換案内が可能となり、より正確に到着時刻がわかるようになる



R5以降、継続実施

- ✓ 基礎データの適切な更新（各運行主体）
- ✓ 講習会開催などデータ更新の支援（県）

ステージ 3

MaaSシステムの構築

交通事業者間の連携によるシームレスな移動、定額制の導入

他業種サービス（ex. 飲食店や店舗、医療、福祉）との統合